

ボルドール24時間耐久ロードレース フランス・ポールリカルサーキット

決勝 1

#10 エヴァンゲリオン初号機トリックスター **ボルドール24時間耐久レース 初表彰台獲得!!**

2016年9月17日 決勝午後 3 時スタート / 18日午後 3 時フィニッシュ

決勝 / 3 位

天気：晴れ

気温：12℃～20℃

観客：65000人



2 輪の世界耐久選手権 (EWC) の 2016-17 年の新シリーズの開幕戦が、今年で 80 回目を迎えるボルドール 24 時間耐久（フランス・ポールリカルサーキット）で行われました。

世界タイトルを目指すトリックスターは鶴田竜二監督の元、出口修、井筒仁康、エルワン・ニゴンのラインナップで挑み、676 周を走りチェッカーを受け 3 位表彰台を獲得しました。

最終予選で 55 台のグリッドが決まりトリックスターは 7 番手。スタート進行の前には鶴田監督がスタッフ全員を集めて、力を尽くそうと誓い、心を一つにします。

開会式のセレモニーを終えてスタートを待ちますが、転倒者が出てレースディレイ。スタートライダーのニゴンは集中力を切らすことなく伝統的なル・マン式スタートでトップ集団に食い込む走りを見せます。

トップは 15 回もの世界耐久タイトルを持つスズキエンデュランスレーシング（SERT）、2 番手には名門 SRC カワサキ、両チーム共、耐久ファンで知らぬ者はない耐久を幾度も制覇した強豪チームです。

そこに、初のフル参戦を決め、初のボルドール 24 時間に挑むトリックスターが食らいつきます。

ホンダエンデュランスチームに 3 番手を奪われますが、トリックスターは自らのペースを崩すことなく確実な周回を重ねます。7 時間目にはホンダエンデュランスチームがトラブルで後退、3 番手ポジションを挽回します。ホンダエンデュランスチームは、再びトラブルに見舞われ後退。ですが、スタート直後にガス欠で出遅れた YART ヤマハオフォシャル EWC チームが追い上げてトリックスターの前に出ます。

上位 3 台は、耐久スペシャリスト、トリックスターにとって、越えなければならない相手です。

8 時間が過ぎ、すっかり陽が落ちたサーキットは、気温が 20 度から 12 度までと急激に下がり、更に冷たい風が吹き、ライダーにとってもスタッフにとっても寒さが押し寄せる辛い状況となります。

転倒車やトラブルなどでセーフーカーが 3 度も入り、その間、レーススピードで走っている時には感じなかった寒さをライダーは身にしみて感じるようになります。10 時間経過時には SRC カワサキ、YART ヤマハが脱落、トリックスターは 2 番手へと躍進します。

強敵である SERT は、完璧な走行を繰り返し首位を独走します。トップを追いかけるトリックスターですが、ヤートヤマハが追い上げを見せ 11 時間後にはトリックスターの前へ。トリックスターは懸命の追い上げを見せますが、協力的な布陣でなかなか隙が見つかりません。トリックスターは 3 番手を走行、確実なルーティンで自らの走りを貫きます。15 時間が経過すると、YART ヤマハに異変が起きリタイヤとなってしまいます。再びトリックスターは 2 番手へとポジションアップ。ですが、トラブルから復活した SRC カワサキが追い上げてきます。ポールリカルを知り尽くしたライダーたちは、暗闇の中でグイグイと差を詰めるのです。鶴田監督はライダーのローテーションを変え対抗しますが、18 時間過ぎに 2 番手の座を奪われてしまいます。名門チームを襲ったトラブルや転倒は、どのチームにも起こり得るアクシデント、トリックスターはチーム一丸となり、ミスのない走行、ピットワークを再度誓います。

耐久スペシャリストであるニゴンが懸命の走りでバトンをつなぎ、それを出口が走行毎に速さを増して井筒へと渡します。最後のピットインで、井筒はニゴンからマシンを受け取り、3 番手で大事に周回を重ねチェッカーを受けました。トリックスターは 55 台が出走し完走扱いは 32 台の過酷なレースを最後まで走り切ることが出来ました。

優勝はスズキエンデュランスレーシングチーム、2 位には激しい追い上げを見せた SRC カワサキが入りました。世界耐久選手権を代表するふたつのチームと表彰台に立ち大喝采を浴びました。